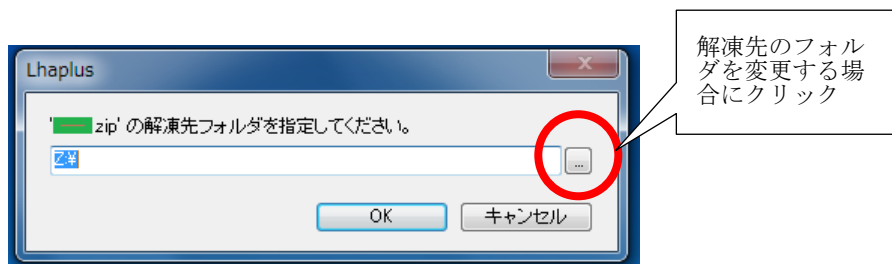
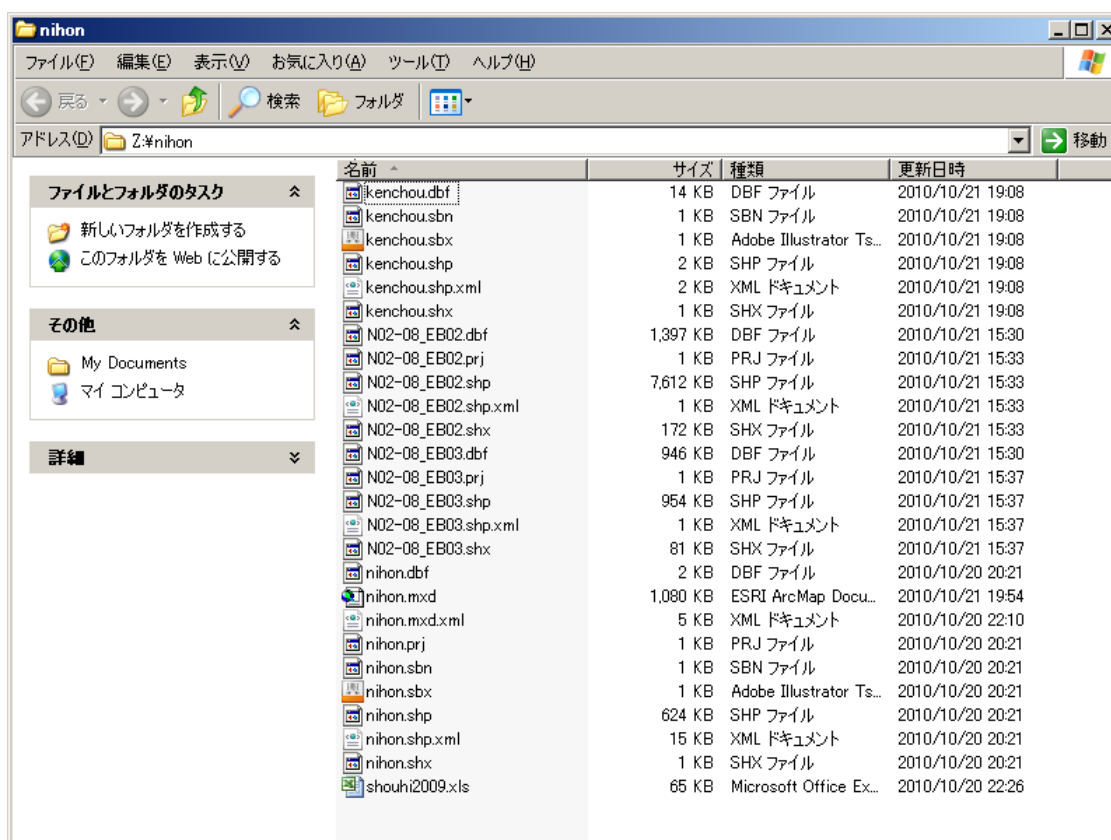


nihon.zip の処理手順

1. 授業のホームページから、圧縮ファイル(nihon.zip)をダウンロードし、Z:ドライブ(マイドキュメント)上に保存しておく。
2. ダウンロードした圧縮ファイルをダブルクリックすると、「デスクトップ」上に解凍されたフォルダが現れる。USB フラッシュメモリなど、「デスクトップ」以外の場所に展開する場合は、解凍先のフォルダを変更すればよい。



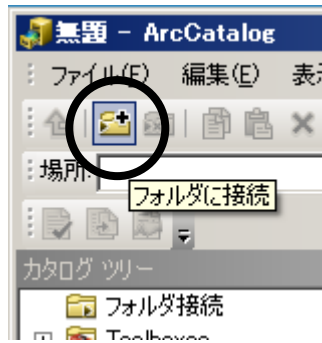
3. 解凍されたフォルダを開き、エクスプローラの「詳細表示」でファイルの概要を確認する。



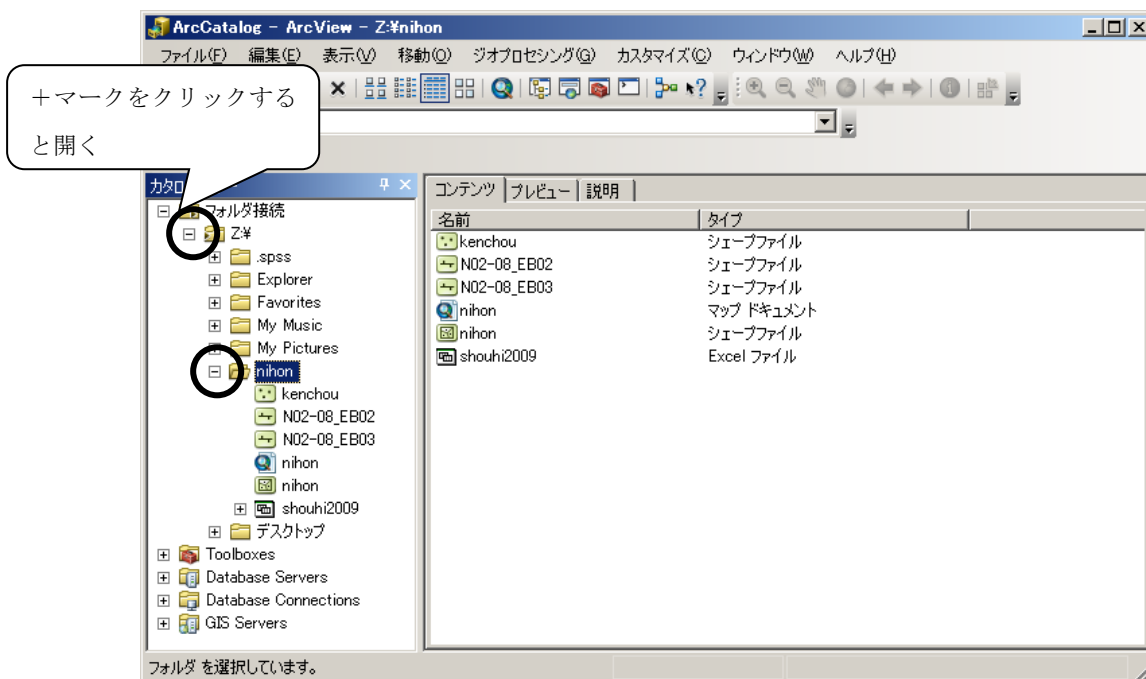
ポイント: 拡張子の異なる同名のファイルが複数(たとえば, kenchou については「.dbf」「.sbn」「.sbx」「.shp」「.shp.xml」「.shx」の 6 種類)あることを確認する。

4. 「プログラム」メニュー→「データ処理ツール」→「地理情報システム(ArcGIS)」→「ArcCatalog」を選択して起動する。

5. 「フォルダに接続」ボタンで、「Z:」ドライブを選んで「OK」をクリックする。

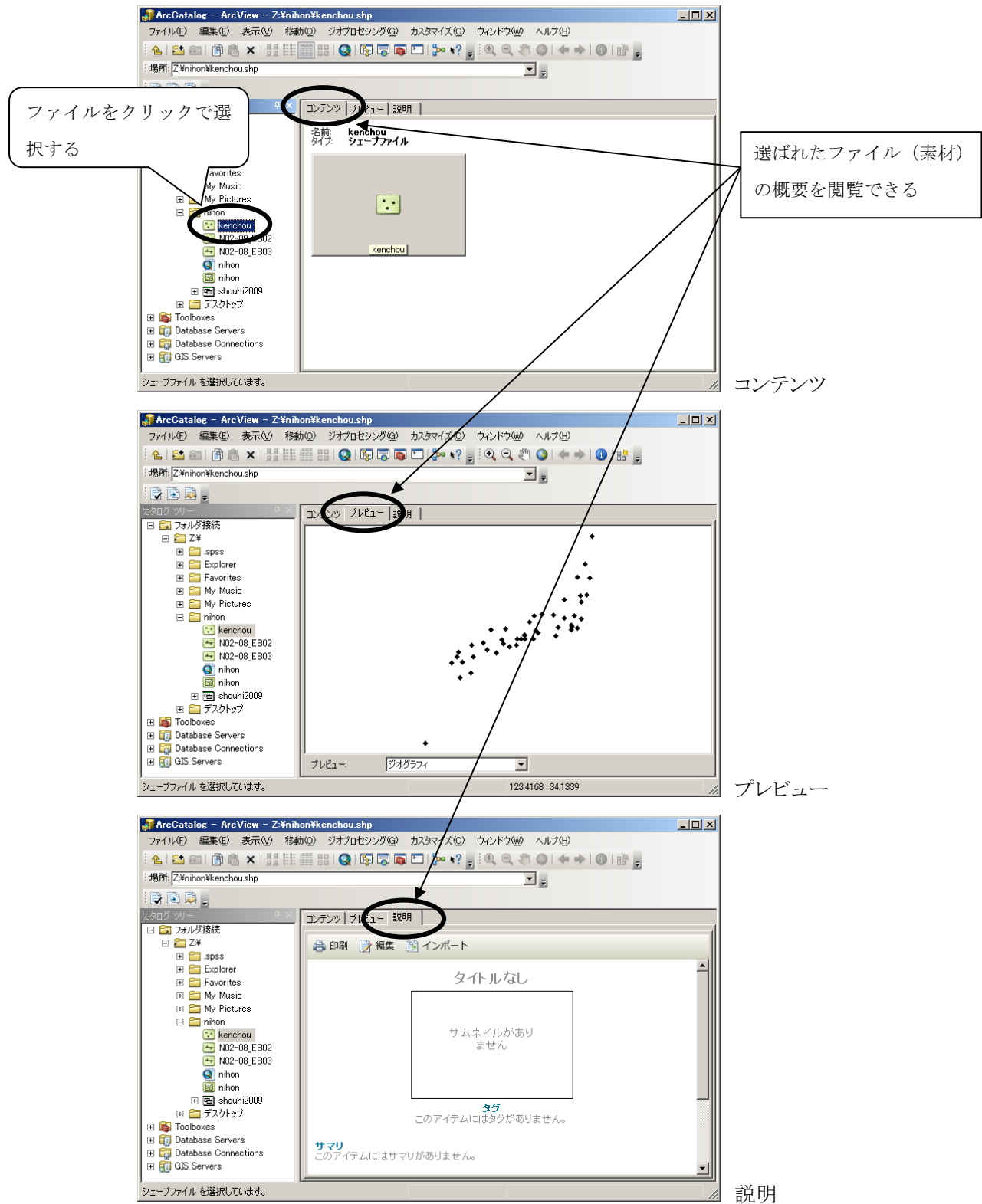



6. ウィンドウ左サイドの「カタログ」の Z:ドライブを展開してゆき、「nihon」フォルダ中のファイル一覧が表示されることを確認する。Windows のエクスプローラでの一覧と比較してみる。



ポイント:ArcGIS で使用されるファイルに関しては、ArcCatalog を使うと、一般のファイル操作(名前の変更・削除・ファイルのコピーや移動)と同様の操作がより簡単に行える。

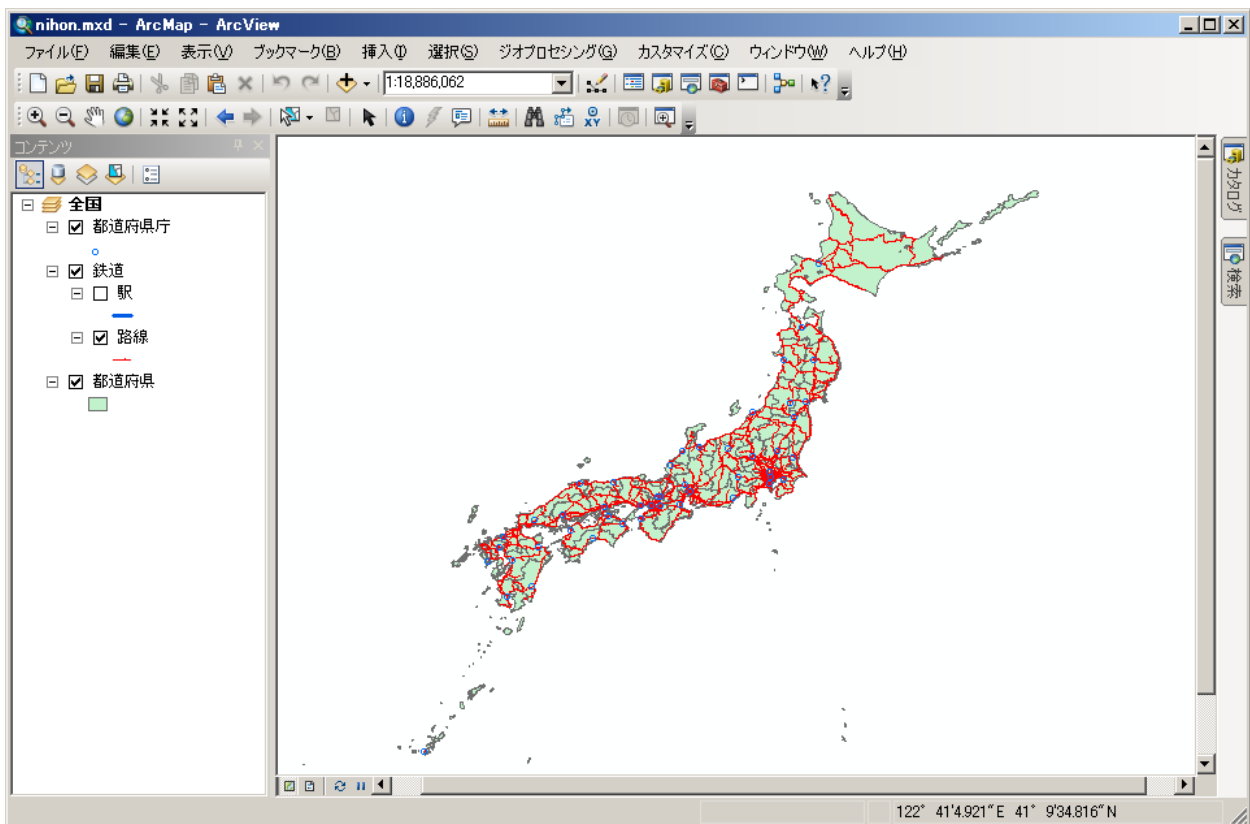
7. ArcCatalog の右サイドのウィンドウでは、「プレビュー」に切り替えることで選択されているファイルの内容を閲覧できることを確認する。



8. 「nihon.mxd」(ArcCatalog 上の  nihon のアイコン, または, Windows のエクスプローラ上の



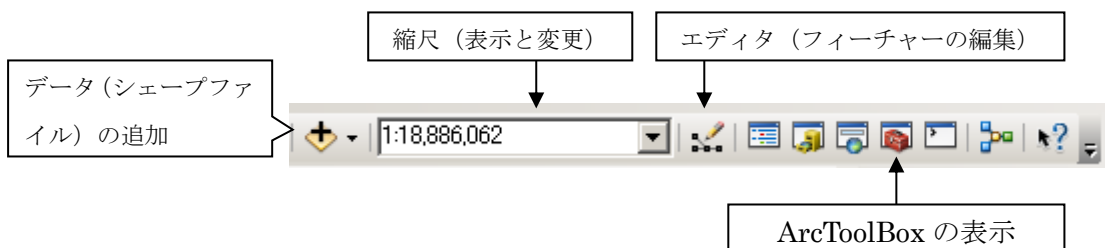
のアイコン, のいずれか)をダブルクリックすると, ArcMap が自動的に起動される。



9. 各ツールバーの使い方を確認してみる。主なボタンについては下記の説明を参照のこと。

標準ツールバー

(表示されていない場合は「カスタマイズ」メニューの「ツールバー」→「標準」をチェック)



ツールバー

(表示されていない場合は「カスタマイズ」メニューの「ツールバー」→「ツール」をチェック)



10. 各素材の操作は、「コンテンツ」ウィンドウで行う(表示されていない場合は「ウィンドウ」メニューの「コンテンツ」をチェック)。

レイヤの開閉

表示の ON/OFF

右クリックで操作メニュー

通常のクリックでシンボルの変更

ポイント型

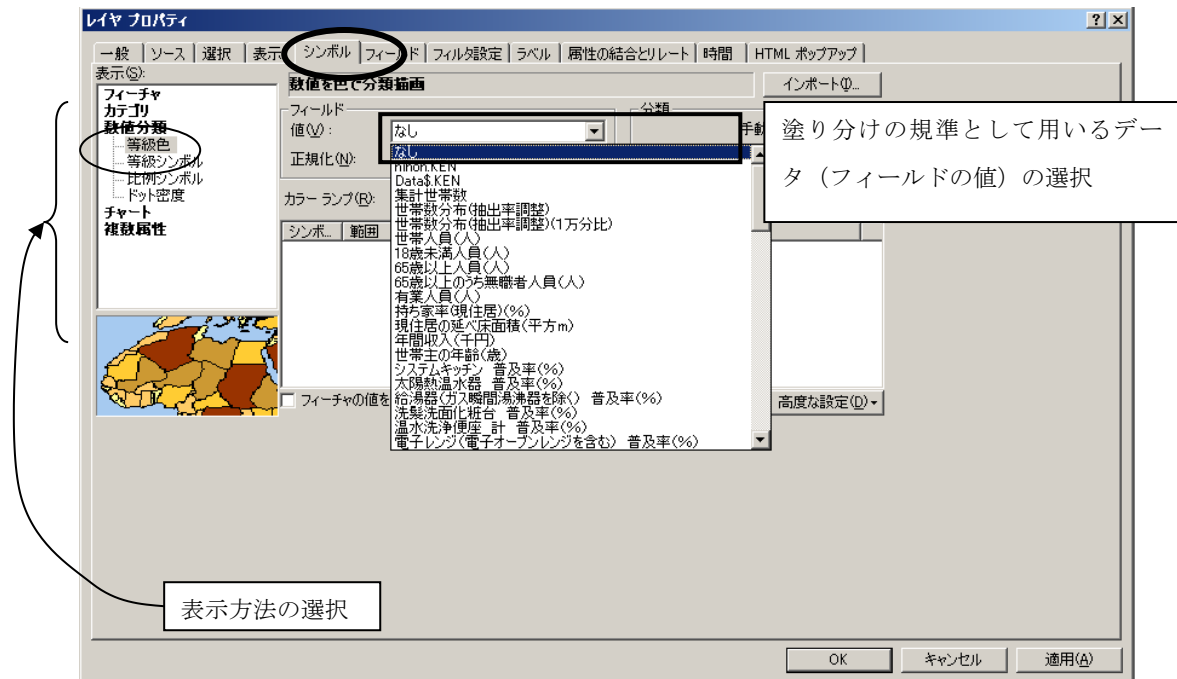
ライン型

ポリゴン型

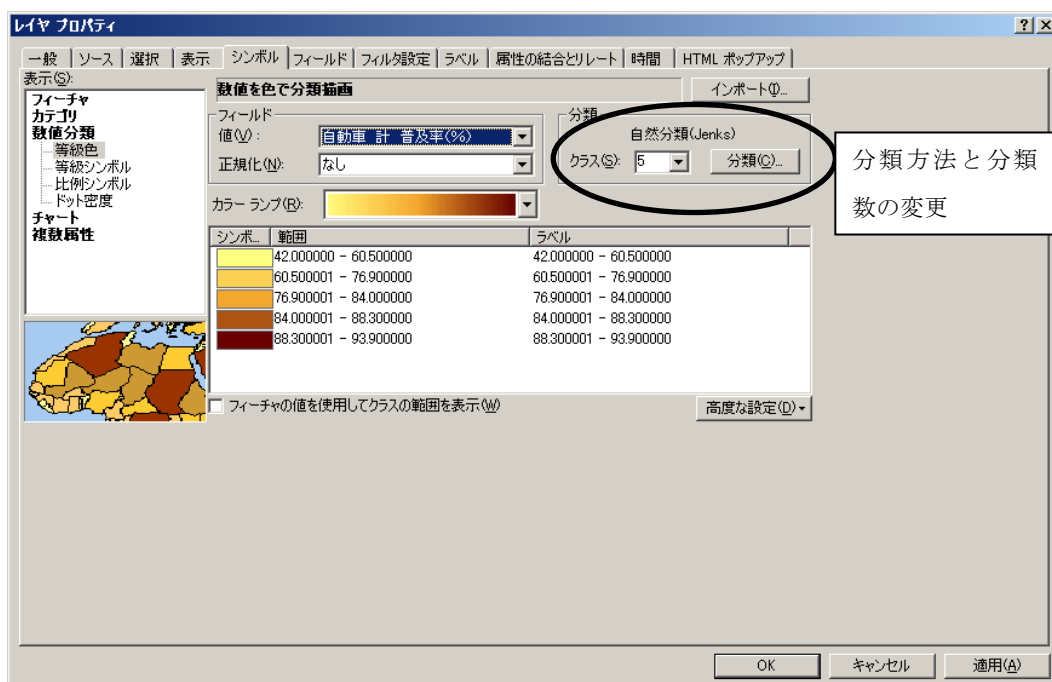
11. 操作練習

9. 10. の説明図を参考に、素材(レイヤ)の ON/OFF や、部分拡大と全体表示の切り替えを行ってみよ。また、「計測ツール」を使って距離の計測を行ってみよ。

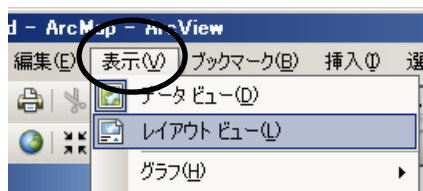
12. データの表示は、各レイヤの「プロパティ」ダイアログを使って切り替えられる。例えば、都道府県の表示色をそのデータの値によって塗り分けるには「カテゴリ」あるいは「数値分類」の「等級色」を利用する。



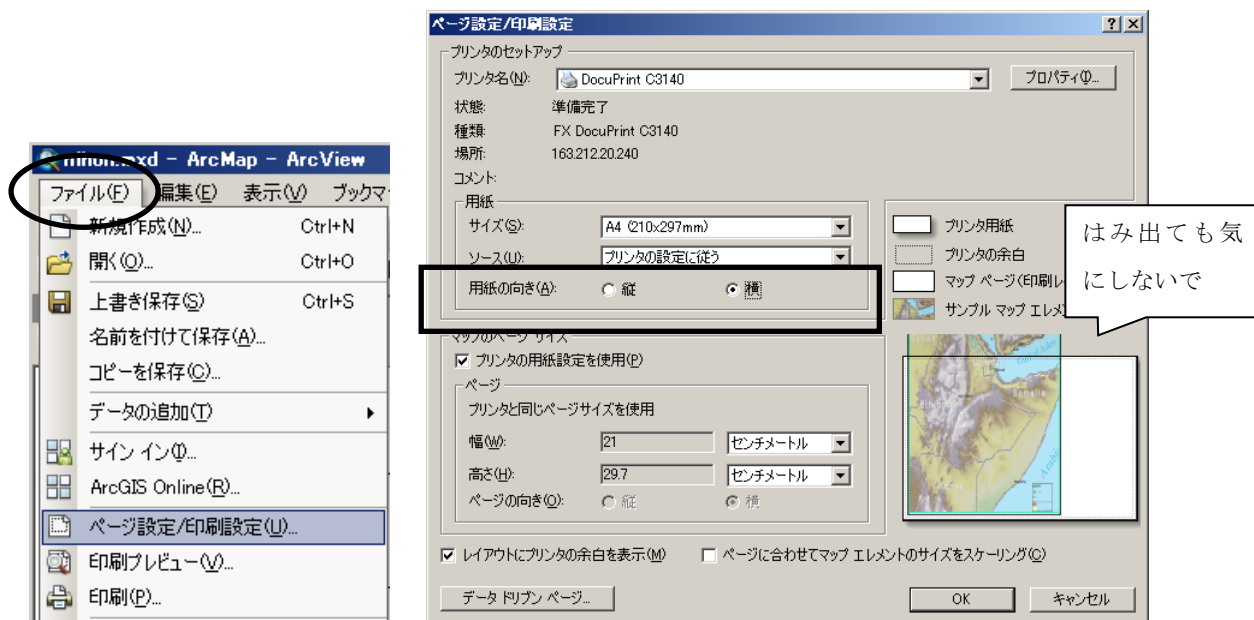
たとえば、「等級色」で、「自動車 計 普及率(%)」の値を用いた結果を下に示す。



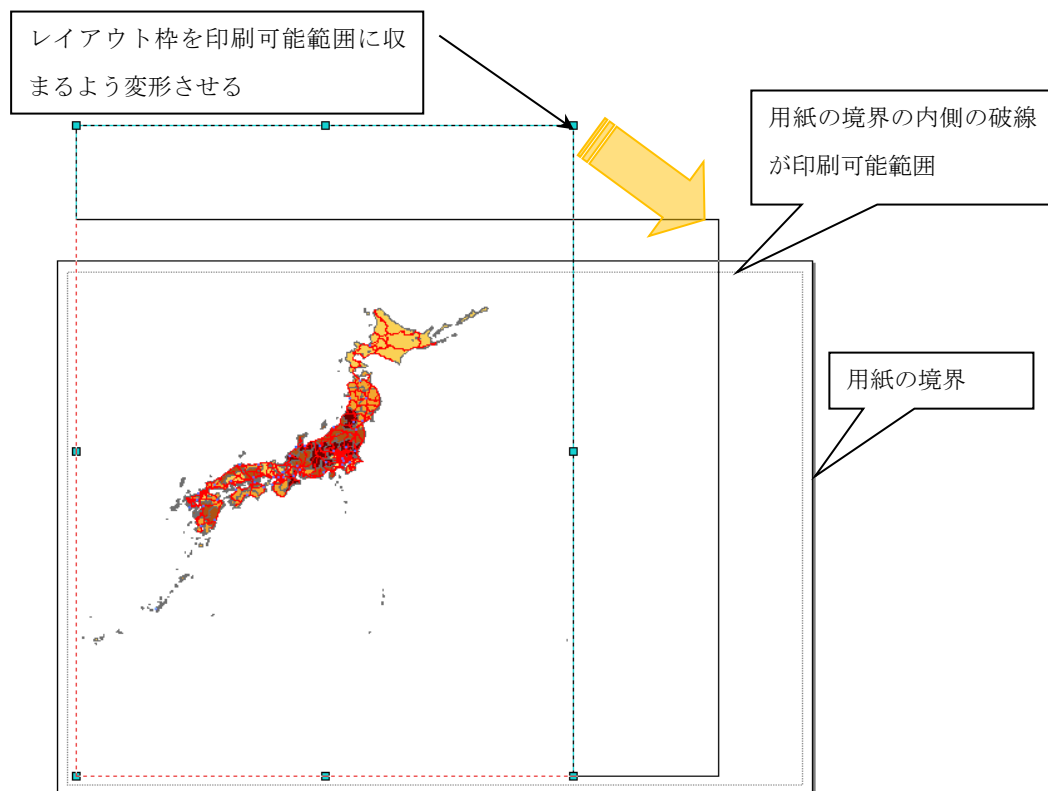
13. 「表示」メニューで「レイアウトビュー」に切り換えると、印刷時のレイアウトを意識しながら作業ができる。



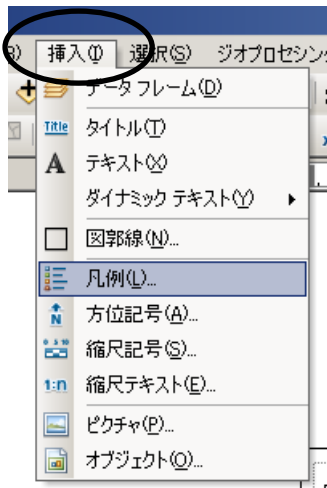
この状態で「ファイル」メニューの「ページ設定／印刷設定」で適宜変更してみよう。



一般に、縦・横を変えると実際の印刷範囲とずれるので、「レイアウトビュー」状態でレイアウトを変更する。



14. 「挿入」メニューを用いると地図として必要な「タイトル」「凡例」「方位記号」「縮尺記号」を加えられる。



15. 下の見本を参考に仕上げてみよ。各地図記号の大きさの変更手順は省くが、一般の図形ツールと同じような感覚でよい(ヒント:「プロパティ」や「書式設定」で探す)。

